

治水対策の推進 (1/2)

災害に対し脆弱な県土環境



佐賀県は、厳しい地形・地質・気象条件下にあり、水害・土砂・高潮等の災害に対して脆弱な県土環境にあります。

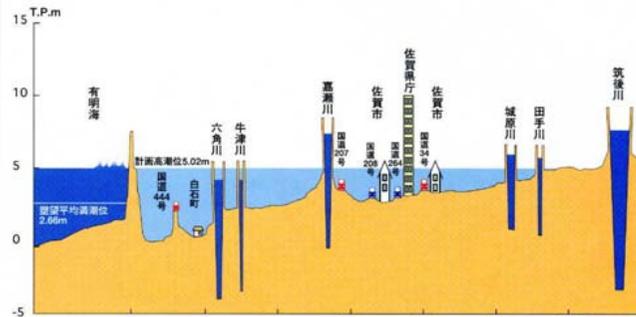
- ・年間平均降雨量は1890mmで世界平均の約2倍
- ・梅雨期と台風期に集中豪雨が頻発
- ・有明海沿岸など、自然排水が困難な低平地
- ・佐賀平野の軟弱地盤地帯と地盤沈下の進行
- ・県西部地区を中心に地すべり・土石流が発生



▲福所江(佐賀市)高潮災害(S60年8月台風13号)



▲佐賀市中心市街地の浸水(H2年7月洪水)



▲佐賀平野の概念図(低平地:自然排水が困難)



▲徳須恵川(伊万里市)災害(H18年9月洪水)



▲金立川(佐賀市)災害(H21年7月洪水)

治水対策の推進（2/2）

■ 治水対策は安全・安心の基本条件



佐志川(唐津市)の改修状況【河道拡幅】

県民生活にとって最も基本的な条件となる『安全・安心の確保』を図るため、県が管理する中小河川においては、1時間に概ね60mm程度の降雨があっても、洪水を安全に流すことができるように河川整備を進めます。

- ・河道の整備(川幅の拡幅や堤防・護岸の整備)
- ・自然排水が困難な箇所への排水ポンプの設置
- ・洪水調整池、水門・樋管等の河川施設の整備
- ・河道拡幅等に伴う堰・橋梁等の改築

管理者	河川等の種類	水系数	河川数	河川延長(km)	要改修延長(km)	整備済延長(km)	H24年度末整備率(%)
知事	一級河川 (指定区間)	4	279	866.3	644.2	317.9	49.3
	二級河川	60	174	509.3	382.4	189.7	49.6
	計	64	453	1375.6	1026.6	507.6	49.4

[河川整備率=整備済み延長/要改修延長]

※県河川の整備率は、未だ5割に満たない低い整備水準にあり、治水対策の推進が必要です。



巨勢川(H2年7月洪水)

■ 地球温暖化等に伴う気候変動への適応策

気候変動による海面水位の上昇、大雨の頻度増加、台風の激化等により、洪水・土砂・高潮等の災害リスクが増大しています。

- ①施設を中心とした適応策(ハード対策)
「選択と集中」による整備の重点化/既存施設の徹底活用
- ②土地利用の規制・見直しなど地域づくりからの適応策
輪中堤、二線堤等の氾濫拡大防止施設/災害危険区域指定
- ③危機管理対応を中心とした適応策(ソフト対策)
ハザードマップ等の防災情報/水防・避難・救助・復興等計画

■ 人の暮らしや自然環境との調和

河川整備にあたっては、人の暮らしや自然環境との調和を図る『多自然川づくり』を基本に進めます。

◆ 多自然川づくりとは

河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出するために、河川管理を行うことです。



田手川(吉野ヶ里公園付近)